

自分で行く、
国際分散投資。

新生パワーダイレクト年金

新変額個人年金保険（無配当）＜特別勘定グループ（PD型）＞

月次運用実績レポート

2015年3月

特別勘定[ファンド]の名称	主な運用対象の投資信託	投資信託の運用会社
日本成長株式型（PD）	フィデリティ・日本成長株・ファンドVA3 （適格機関投資家専用）	フィデリティ投信株式会社
日本店頭・小型株式型（PD）	インベスコ店頭・成長株オープンVA1 （適格機関投資家私募投信）	インベスコ・アセット・マネジメント株式会社
日本株式INDEX型（PD）	インデックスファンド225VA （適格機関投資家向け）	日興アセットマネジメント株式会社
海外株式INDEX型（PD）	インベスコ MSCIコクサイ・インデックス・ ファンド I（適格機関投資家専用）	インベスコ・アセット・マネジメント株式会社
エマージング株式型（PD）	HSBC チャイナファンドVAⅡ号 （適格機関投資家専用）	HSBC投信株式会社
日本債券型（PD）	MHAM物価連動国債ファンドVA （適格機関投資家専用）	みずほ投信投資顧問株式会社
世界債券型（PD）	グローバル・ソブリン・オープンVA （適格機関投資家専用）	国際投信投資顧問株式会社
海外高利回り債券型（PD）	高利回り社債オープンVA （適格機関投資家専用）	野村アセットマネジメント株式会社
マネープール型（PD）	フィデリティ・マネー・プールVA （適格機関投資家専用）	フィデリティ投信株式会社

＜引受保険会社＞

＜募集代理店＞



〒103-8303 東京都中央区日本橋室町2-4-3
新生パワーコール 0120-456-860



アクサ生命保険株式会社

redefining / standards

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3
TEL 0120-933-399
アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/>

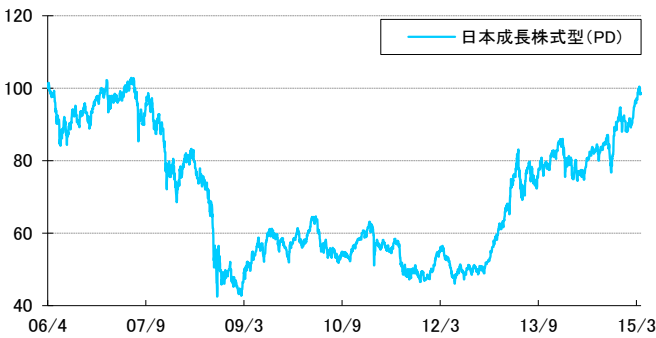
特別勘定名称

日本成長株式型(PD)

運用方針

日本の成長企業の株式に投資を行う投資信託を中心に運用を行います。

ユニット・プライスの推移



ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
日本成長株式型(PD)	1.88%	8.25%	13.79%	24.14%	▲1.54%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金等	4.7%
投資信託等	95.3%
合計	100.0%

※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点を「100」として指数化したものです。

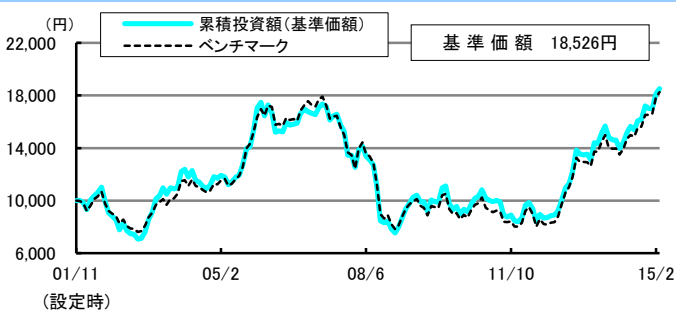
【参考】日本成長株式型(PD)の主な投資対象の投資信託の運用状況を掲載

フィデリティ・日本成長株・ファンドVA3(適格機関投資家専用)

(運用会社:フィデリティ投信株式会社)

- ①主として日本株を投資対象とします。
- ②個別企業分析により、成長企業を選定し、利益成長性等と比較して妥当と思われる株価水準で投資を行ないます。

設定来の運用実績 (2015年3月31日現在)



※累積投資額は、ファンド設定時に10,000円でスタートしてからの収益分配金を再投資した実績評価額です。

ただし、購入時手数料および収益分配金にかかる税金は考慮していません。

ベンチマークはファンド設定日前日を10,000円として計算しています。

※基準価額は運用管理費用控除後のものです。

※当該実績は過去のものであり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

<運用コメント>

当月の東京株式市場は、景気や企業業績に対する楽観的な見方が広がり、利合いの売りをこなしつつ続伸しました。当月の日本株ですが、前月までの急騰を受けて高値警戒感が強かった上旬は、売り買いが交錯して揉み合う推移となりました。月初に史上最高値を更新した米国株が、早期利上げ実施への警戒感やドル高などによる業績悪化懸念から反落に転じたことも、日本株にとっての重石となりました。しかし中旬に入り、春闘における賃上げ交渉が各社とも順調に進んでいると報道されると、景気や企業業績の持続的な拡大につながるとの見方から、日本株は再び動きづきました。さらに、株主対応に消極的な企業の代表ともいえるファナックが、前向きな姿勢に転じると伝わったことで、日本企業の変化を示す象徴的事例として好感され、相場全体の上昇に弾みがつきました。月末近くになって米国株が再び調整、また中東にて地政学的リスクが高まったこともあり、日本株も小反落を強いられましたが、高値圏にて当月を終えました。

月間の騰落率は、TOPIX(配当金込)が+2.06%、日経平均株価は+2.18%でした。

※上記コメントは、資料作成時点におけるもので将来の市場環境等の変動等を保証するものではありません。

ポートフォリオの状況(マザーファンド・ベース)

(2015年2月27日現在)

<資産別組入状況>

株式	98.9%
新株予約権証券(ワント)	-
投資信託・投資証券	0.1%
現金・その他	1.0%

<市場別組入状況>

東証1部	96.9%
東証2部	0.7%
ジャスダック	0.9%
その他市場	0.5%

<組入上位5業種>

電気機器	21.1%
機械	10.3%
輸送用機器	9.7%
化学	5.5%
サービス業	5.2%

(対純資産総額比率)

* 各々のグラフ、表にある比率は、それぞれの項目を四捨五入して表示しています。

* ファンドは短期資金の運用の一環として、委託会社が設定した「フィデリティ・円キャッシュ・ファンド(適格機関投資家専用)」に投資する場合があります。これはあくまでも短期資金の運用であるため、組入上位10銘柄、市場別組入状況には含めず、資産としては「現金・その他」に分類いたしております。なお、未払金等の発生により、「現金・その他」の数値がマイナスになることがあります。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を10/10ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

日本店頭・小型株式型(PD)

運用方針

日本の中小企業株式に投資を行う投資信託を中心に運用を行います。

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(2003年10月15日)を「100」として指数化したものです。

ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
日本店頭・小型株式型(PD)	2.24%	4.07%	7.50%	7.99%	▲20.59%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金等	4.6%
投資信託等	95.4%
合 計	100.0%

【参考】日本店頭・小型株式型(PD)の主な投資対象の投資信託の運用状況を掲載

インベスコ店頭・成長株オープンVA1(適格機関投資家私募投信)

(運用会社: インベスコ・アセット・マネジメント株式会社)

＜基準価額の騰落率＞

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
インベスコ店頭・成長株オープンVA1	2.46%	4.56%	8.60%	9.71%	111.78%
JASDAQ インデックス	2.57%	6.01%	5.26%	15.61%	49.22%
差 異	▲ 0.11%	▲ 1.46%	3.34%	▲ 5.89%	62.56%

※「設定来」の値は、当ファンドがマザーファンドの買付を開始した2003年10月15日以降のリターン値です。

※ 基準価額の騰落率は、課税前分配金込のデータを元に算出しております。

※ 基準価額は信託報酬(純資産総額に対して年率0.756%(税抜0.7%))控除後の数値です。

＜資産構成＞

	構 成 比
株式	94.7%
その他の有価証券	0.0%
現預金等	5.3%
合計	100.0%
純資産総額	54.27億円

※マザーファンドベース

※当ファンド

＜市場別組入状況＞

市 場 名	比率
東証一部	61.3%
東証二部	12.5%
JASDAQ	12.6%
その他市場	8.4%
現金・その他	5.3%

※マザーファンドベース

＜組入上位業種＞

	業 種 名	比率
1	サービス業	28.3%
2	小売業	11.2%
3	情報・通信業	10.7%
4	卸売業	9.7%
5	機械	8.5%

※マザーファンドベース

＜組入上位10銘柄＞(銘柄数 54銘柄)

	銘 柄 名	業 種	比率
1	サイバーエージェント	サービス業	6.3%
2	朝日インテック	精密機器	5.3%
3	シークス	卸売業	3.7%
4	東 祥	サービス業	3.7%
5	あい ホールディングス	卸売業	3.2%
6	エスアールジータカミヤ	サービス業	3.0%
7	ビーシーデポコーポレーション	小売業	3.0%
8	技研製作所	機械	2.6%
9	エイチ・アイ・エス	サービス業	2.6%
10	ハーモニック・ドライブ・システムズ	機械	2.5%

※マザーファンドベース

＜運用コメント＞

＜市場概況と運用状況＞

3月の国内株式市場は引き続き上昇し、日経平均株価指数は2000年以来となる19,000円台を回復しました。また、内需関連銘柄や一部の新興市場銘柄に物色対象が広がり、JASDAQ INDEXの上昇率が日経平均株価やTOPIXの上昇率を上回りました。3月の運用では、株価が上昇し割安感が薄れたと判断した銘柄を売却した一方、2015年度に向けて高い利益成長が期待できると判断した銘柄を組み入れました。

＜今後の見通しと運用方針＞

今後の中小株市場は高値圏でのみあいの展開を想定しています。2015年4月後半から2014年度の業績発表が本格化しますが、①新年度の日本企業の利益成長率が他の主要国企業と比較して高い水準にあること、②2014年来継続している増配や自社株買いなどの株主還元策積極化の姿勢が確認されることが株価の支援材料になると考えています。一方、年初来では日本株式市場の上昇ペースが急であることから利益確定の動きが出やすい状況となっています。今後の運用では、現在のポートフォリオ戦略を維持しつつ、2015年度の業績モメンタムを考慮しながら、引き続き保有銘柄の入れ替えなどを行う方針です。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
 ※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を10/10ページに掲載していますので必ずご参照ください。

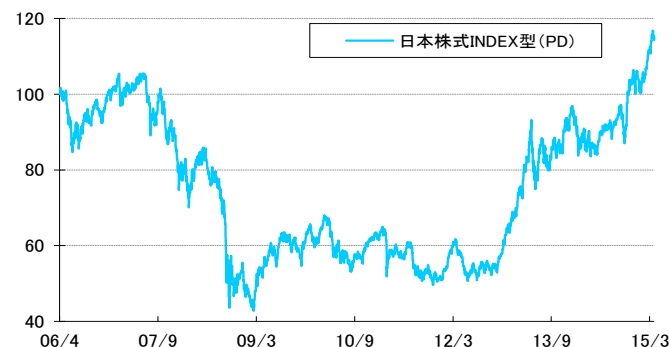
特別勘定名称

日本株式INDEX型(PD)

運用方針

日経平均株価に連動した投資を行う投資信託を中心に運用を行います。

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(06/4)を「100」として指数化したものです。

ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
日本株式INDEX型(PD)	2.52%	9.95%	18.50%	28.62%	14.30%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金等	4.6%
投資信託等	95.4%
合計	100.0%

【参考】日本株式INDEX型(PD)の主な投資対象の投資信託の運用状況を掲載

インデックスファンド225VA(適格機関投資家向け)

(運用会社: 日興アセットマネジメント株式会社)

<基準価額の騰落率>

	3ヵ月間	6ヵ月間	1年間	3年間	設定来
インデックスファンド225VA	10.65%	19.43%	30.98%	25.61%	7.08%
日経平均株価(225種・東証)	10.06%	18.76%	29.53%	23.96%	5.90%
差異	0.59%	0.67%	1.45%	1.65%	1.18%

<純資産総額>

純資産総額	102.43億円
-------	----------

※収益率は、1年以上の場合、年率ベースで、1年未満(3ヵ月間、6ヵ月間)は、年率換算していません。

※ファンド(分配金再投資)の収益率は、当ファンド決算時に分配金があった場合の分配金を再購入(再投資)し、算出しています。

※収益率・リスクともに月次の収益率より算出しています。設定日が月中の場合、設定日が属する月は含んでいません。

<株式組入上位10業種>

	業種名	ファンドのウェイト
1	電気機器	18.82%
2	小売業	11.96%
3	情報・通信業	10.17%
4	化学	7.86%
5	医薬品	7.51%
6	輸送用機器	6.97%
7	機械	4.88%
8	食料品	4.72%
9	サービス業	2.77%
10	精密機器	2.70%

※ファンドのウェイトはマザーファンドの対純資産総額比です。

<株式組入上位10銘柄>

	銘柄名	ファンドのウェイト
1	ファーストリテイリング	9.42%
2	ファナック	5.32%
3	ソフトバンク	4.24%
4	KDDI	3.31%
5	京セラ	2.67%
6	アステラス製薬	1.99%
7	TDK	1.73%
8	エーザイ	1.73%
9	トヨタ自動車	1.70%
10	東京エレクトロン	1.70%

(組入銘柄数: 225)

※ファンドのウェイトはマザーファンドの対純資産総額比です。

<資産構成>

株式	99.11%
一部上場	99.11%
二部上場	0.00%
地方単独	0.00%
ジャスダック	0.00%
その他	0.00%
株式先物	0.84%
株式実質	99.95%
現金その他	0.89%

※当ファンドの実質の組入比率です。

<運用コメント>

3月の国内株式市場は、日経平均株価が前月末比プラス2.18%と上昇しました。

市場予想を上回る内容の経済指標の発表が相次ぎ、政府が月例経済報告において景気の基調判断を引き上げたことや、春の労使交渉において主要企業が総じて過去の実績を上回る賃金改善や一時金などを組合側に回答したことなどを背景に、景気の先行きに対する明るい見方が広がりました。加えて、欧州や新興国などにおいて金融緩和の強化が相次いだことや、株主還元策が強化される傾向が続くなか、3月決算銘柄の配当などの権利を狙う投資家による買いが強まったことなども、国内株式市場の支援材料となりました。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を10/10ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

海外株式INDEX型 (PD)

運用方針

日本を除く外国株式インデックスに連動した投資を行う投資信託を中心に運用を行います。

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(100)として指数化したものです。

ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
海外株式INDEX型 (PD)	▲0.31%	0.73%	12.72%	22.48%	46.88%

特別勘定資産内訳

	構成比 (%)
現預金等 投資信託等	4.7%
合 計	95.3%
	100.0%

【参考】 海外株式INDEX型(PD)の主な投資対象の投資信託の運用状況を掲載

インベスコ MSCIコクサイ・インデックス・ファンドI(適格機関投資家専用)
(運用会社: インベスコ・アセット・マネジメント株式会社)

＜基準価額の騰落率＞

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	設定来
インベスコ MSCI コクサイ・インデックス・ファンドI	▲ 0.21%	0.97%	13.90%	24.94%	139.21%
MSCIコクサイ・ インデックス	▲ 0.40%	0.54%	13.08%	22.76%	-
差 異	0.18%	0.43%	0.82%	2.18%	-

※ファンドの騰落率は、課税前分配金込みの基準価格をもとに算出しています。
※ベンチマークの累積リターンは、ファンドの基準価額算出方法と同一基準(基準日前日の各外貨建資産を基準日の各通貨毎のTTMレートで評価する方法)で月次ベースでのみ算出しています。尚、2009年5月1日より日次ベースでの算出に変更しています。

＜組入株式上位10銘柄＞

	銘柄名	国名	業種	純資産比
1	APPLE	アメリカ	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	2.3%
2	EXXON MOBIL	アメリカ	エネルギー	1.1%
3	MICROSOFT	アメリカ	ソフトウェア・サービス	1.0%
4	JOHNSON & JOHNSON	アメリカ	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	0.9%
5	WELLS FARGO	アメリカ	銀行	0.8%
6	GENERAL ELECTRIC	アメリカ	資本財	0.8%
7	NESTLE-REG	スイス	食品・飲料・タバコ	0.8%
8	NOVARTIS-REG	スイス	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	0.7%
9	JPMORGAN CHASE & CO	アメリカ	銀行	0.7%
10	PROCTER & GAMBLE	アメリカ	家庭用品・パーソナル用品	0.7%

※国名は、MSCI構成国で区分しています。
※業種は、MSCI世界産業分類基準の産業グループに準じています。

＜純資産総額＞

純資産総額	2,056 (百万円)
-------	-------------

＜資産配分＞

株式	95.0%
先物取引	3.9%
現金その他	1.1%
組入総銘柄数	1,325

※株式には、投資信託証券などが含まれます。

＜株式組入上位5カ国＞

国名	純資産比
アメリカ	59.7%
イギリス	8.0%
フランス	3.9%
ドイツ	3.8%
カナダ	3.8%

＜株式組入上位5業種＞

業種	純資産比
金融	19.8%
ヘルスケア	13.3%
情報技術	12.8%
一般消費財・サービス	11.4%
生活必需品	9.6%

＜運用コメント＞

①米国

3月の米国株式市場は下落しました。月の前半は、雇用統計を始めとした経済指標が良好な結果となる中、米連邦準備理事会(FRB)が早期の利上げを実施するのではないかと警戒感が強まったことなどにより、株価は売りに押される展開となりました。月の後半にかけては米ドル高の進行などによる米国企業の業績悪化懸念や、2月の耐久消費財受注が市場予想を下回ったことなどを背景に上値の重い展開となりました。これらの要因により、株式市場は月を通じて下落基調で推移しました。このような投資環境下、各指数の月間騰落率はNYダウ工業株30種平均指数が▲1.97%、S&P500種指数が▲1.74%、ナスダック総合指数が▲1.26%となりました。

②欧州

3月の欧州主要株式市場はおおむね上昇して推移しました。月の前半は、欧州中央銀行(ECB)による量的金融緩和策が好感されたことなどをを受け上昇しました。その後も、ユーロ安による業績改善が期待された海外売り上げ比率の高い銘柄を中心に、株式市場は上昇基調となりました。また、①1月のユーロ圏鉱工業生産指数などの経済指標が総じて良好であったこと、②米国の利上げ観測の後退などが好感され、ドイツのDAX指数が過去最高値を更新しました。一方で、月の後半では中東情勢の不安定化が嫌気されたことにより上値の重い展開で推移しました。このような投資環境下、各指数の月間騰落率は英国FT100指数が▲2.50%、ドイツDAX指数が+4.95%、フランスCAC指数が+1.66%となりました。

③アジア

3月のアジア主要株式市場は市場ごとに異なる推移となりました。香港市場では、月の前半は中国の景気減速懸念が根強いことなどから、利益確定の売りなどにより下落しました。その後は①米国の利上げが緩やかになるとの見通し、②中国国内の機関投資家の香港株への投資について規制緩和されたことなどをを受けて反発し、月間では上昇しました。シンガポール市場では、月の後半にかけてFRBによる利上げ慎重姿勢が好感され、上昇基調で推移しました。オーストラリア市場については、雇用統計が良好だった一方で各種信頼感指数が軟調な結果となり、前月末比若干の下落となりました。このような投資環境下、各指数の月間騰落率は香港ハンセン指数が+0.31%、シンガポールST指数が+1.30%、オーストラリア全普通株指数が▲0.62%となりました。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を10/10ページに掲載していますので必ずご参照ください。

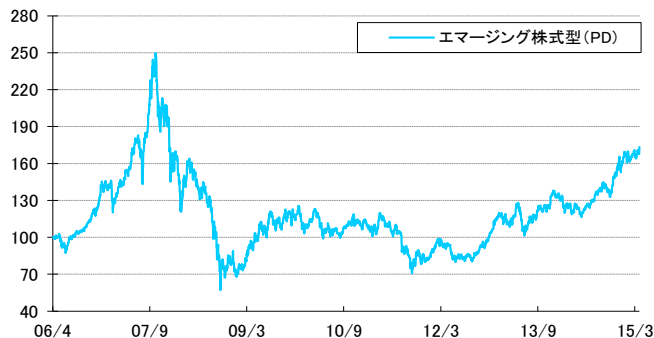
特別勘定名称

エマージング株式型(PD)

運用方針

新興成長国企業の株式に投資を行う投資信託を中心に運用を行います。

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(2006年4月)を「100」として指数化したものです。

ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
エマージング株式型(PD)	2.05%	5.16%	25.27%	41.03%	73.40%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金等	4.6%
投資信託等	95.4%
合計	100.0%

【参考】 エマージング株式型(PD)の主な投資対象の投資信託の運用状況を掲載

HSBCチャイナファンドVAⅡ号(適格機関投資家専用)

(運用会社:HSBC投信株式会社)

<運用コメント>

【市場動向】

3月の中国株式は、香港市場ではH株指数が前月末比+0.6%、レッドチップ指数が-0.7%となりました。※

中国が景気刺激策を講じるとの観測がプラス要因となる一方、米国の利上げ観測がマイナス要因となりました。

※ 指数の月間騰落率は、原則として、基準日の前営業日の数値(終値ベース)をもとに算出。

【運用状況】

3月の基準価額の騰落率は、前月末比+2.3%となり、参考指標を僅かに上回りました。

【今後の見通し】

中央銀行は、今後も景気の動向を注視しつつ、追加利下げ、預金準備率引き下げなどの緩和措置を行う可能性が高く、これは株式市場にプラスに働くことが見込まれます。

政府が最優先課題として取り組んでいる社会構造改革も、政府系企業の経営効率化、代替エネルギーの推進などを通じて株式市場の上昇要因になると見えています。

【投資戦略】

当ファンドの投資戦略は、中国株式市場が中長期的に上昇すると予想される中で、特に社会構造改革から恩恵を受けるセクター(政府系企業、再生可能エネルギー関連、電気自動車関連など)、また金融緩和など当局による景気刺激策から恩恵を受けると見られる景気敏感セクターに注目しています。

※ 将来の市場環境の変動等により、当該運用方針が変更される場合があります。

HSBCチャイナファンドVAⅡ基準価額の推移(設定来)

2004年10月4日～2015年3月31日



※基準価額は信託報酬控除後のものです。

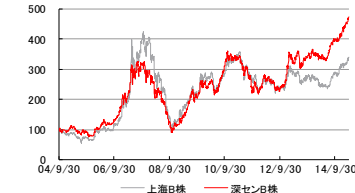
H株とレッドチップの推移(2004年10月4日を100として指数化)

2004年10月4日～2015年3月末日



上海B株と深センB株の推移(2004年9月30日を100として指数化)

2004年9月30日～2015年3月末日



※ 設定日の2004年10月4日は中国本土市場では国慶節の休場日であったことから前営業日の2004年9月30日を100として指数化しています。

為替の推移(香港ドル/円)

2004年10月4日～2015年3月31日

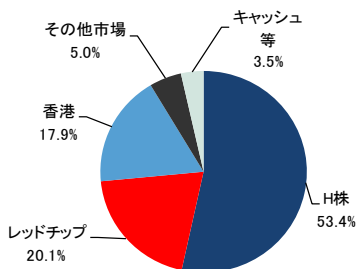


出所:為替レートは投資信託協会、株価指数はブルームバーグ

業種別組入れ比率

業種名称	比率
銀行	24.3%
保険	11.4%
ソフトウェア・サービス	10.6%
不動産	8.2%
電気通信サービス	8.1%
自動車・自動車部品	6.6%
資本財	6.0%
エネルギー	4.6%
公益事業	3.4%
運輸	2.5%
各種金融	2.1%
ヘルスケア機器・サービス	1.9%
その他	7.0%
キャッシュ等	3.5%
合計	100%

市場別組入れ比率



※親信託財産の構成(対純資産総額)

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を10/10ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

日本債券型(PD)

運用方針

日本の物価連動債に投資を行う投資信託を中心に運用を行います。

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(2006年4月)を「100」として指数化したものです。

ユニット・プライス騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
日本債券型(PD)	0.02%	0.81%	▲1.52%	0.56%	9.74%

特別勘定資産内訳

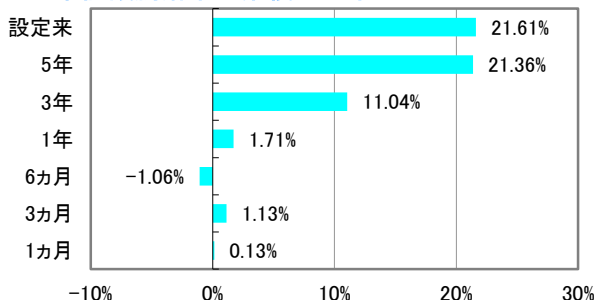
	構成比(%)
現預金等	4.9%
投資信託等	95.1%
合 計	100.0%

【参考】日本債券型(PD)の主な投資対象の投資信託の運用状況を掲載

MHAM物価連動国債ファンドVA(適格機関投資家専用)

(運用会社:みずほ投信投資顧問株式会社)

<基準価額騰落率・累積収益率>



※累積収益は、ファンドの決算時に収益分配があった場合にその分配金(税引前)を再投資したものとして算出。
 ※累積収益率は実際の投資家利回りとは異なります。

<資産構成比率>

国内債現物組入銘柄数	3銘柄
公社債の平均残存期間	8.69年
国内債現物	95.5%
国内債先物	0.0%
その他資産	4.5%

※その他資産は、100%から国内債現物・国内債先物の組入比率の合計を差し引いたものです。
 ※組入比率は、純資産総額に対する比率を表示しています。月末の設定・解約の影響により、一時的に100%を超える場合があります。

<組入上位5銘柄の組入比率>

	銘柄名	利率	償還日	比率
1	第17回利付国債(物価連動・10年)	0.100%	2023/09/10	56.7%
2	第18回利付国債(物価連動・10年)	0.100%	2024/03/10	30.4%
3	第19回利付国債(物価連動・10年)	0.100%	2024/09/10	8.5%
4				
5				

<公社債の残存期間別組入比率>

残存年数	比率
1年未満	0.0%
1年以上3年未満	0.0%
3年以上7年未満	0.0%
7年以上10年未満	95.5%
10年以上	0.0%

※組入上位5銘柄の組入比率、公社債の残存期間別組入比率は、純資産総額に対する比率を表示しています。

<運用コメント>

■先月の投資環境

3月の10年物価連動国債の価格は上昇しました。価格変動の主な要因は以下の通りです。

『既に起こった物価の変動要因』の概況: 3月に適用される全国消費者物価指数(生鮮食品を除く総合指数、以下「コアCPI」といいます。)は前月末対比下落しました(マイナス要因)。

『将来予想される物価の変動(期待インフレ率※1)要因』の概況: 第19回物価連動国債(以下、「第19回債」といいます。)の期待インフレ率は上昇しました。月初0.9%台半ばで始まった第19回債の期待インフレ率は、原油価格の下落の落ち着き等を背景に上昇し、1.0%台半ばで月末を迎えました(プラス要因)。

『金利の変動要因』の概況: 新発10年国債利回り(国内長期金利)は、米国の早期利上げへの思惑などから上下に振れの大きい展開で推移し、前月末対比で上昇しました(マイナス要因)。

※1 物価連動国債の市場価格に織り込まれた将来予想される物価変動率です。例えば、第19回債の場合では、同銘柄とほぼ同残存年数の国債との利回り差となります。

■先月の運用概況

将来予想される物価の変動要因のプラス寄与を主因に基準価額は前月末対比上昇しました。

当ファンドではマザーファンドを通じ前月末のポートフォリオを概ね維持しました。この結果、当月末では物価連動国債の実質組入比率を96%程度とし、保有する物価連動国債の平均残存期間は8.7年程度としました。

■今後の運用方針

物価連動国債市場は中長期的に堅調な展開を想定します。

短期的には年央にかけて物価の伸びは低下すると見込んでいます。しかし、中長期的には以下の点などにより物価は上昇すると見込んでおり、物価連動国債市場は堅調に推移すると想定します。

・日銀は金融緩和政策を通じて、今後も物価目標達成を目指すものと考えていること。

・失業率の改善、有効求人倍率の上昇等により労働需給の引き締めや春闘におけるベースアップ交渉等を通じて賃金の上昇期待が高まる点。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を10/10ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

世界債券型(PD)

運用方針

日本を含む世界の公社債に投資を行う投資信託を中心に運用を行います。

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点を「100」として指数化したものです。

ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
世界債券型(PD)	0.16%	▲1.27%	7.36%	12.41%	24.69%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金等	4.8%
投資信託等	95.2%
合 計	100.0%

【参考】世界債券型(PD)の主な投資対象の投資信託の運用状況を掲載

グローバル・ソブリン・オープンVA(適格機関投資家専用)

(運用会社:国際投信投資顧問株式会社)

＜基準価額の騰落率＞(課税前分配金再投資換算基準価額)

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年間	3年間	設定来
グローバル・ソブリン・オープンVA	0.3%	▲1.0%	8.3%	14.4%	43.9%	70.6%
シティ世界国債インデックス(円ベース、日本を含む)	▲0.5%	▲2.7%	5.3%	10.4%	39.3%	73.1%
差異	0.8%	1.7%	3.0%	4.0%	4.6%	▲2.5%

※騰落率は、年率換算していません。騰落率は月次の収益率より算出しています。

※基準価額は信託報酬控除後のものです。

※「課税前分配金再投資換算基準価額」は、この投資信託の公表している基準価額に、各収益分配金(課税前)をその分配を行う日に全額再投資したと仮定して算出したものであり、委託会社が公表している基準価額とは異なります。

※ベンチマークは基準価額との関連を考慮して、前営業日の値を用いています。

※シティ世界国債インデックスは、Citigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている債券インデックスです。

＜純資産構成比率＞

債券合計	98.4%
現金+現先+その他	1.6%
合計	100.0%

＜債券組入上位10銘柄＞

銘柄	ウェイト	通貨	残存年数
(1) アメリカ国債	4.1%	USドル	5.4
(2) アメリカ国債	3.1%	USドル	28.9
(3) ベルギー国債	3.1%	ユーロ	13.0
(4) アメリカ国債	2.4%	USドル	1.5
(5) アメリカ国債	2.3%	USドル	2.3
(6) アメリカ国債	2.1%	USドル	29.4
(7) イギリス国債	2.1%	英ポンド	2.4
(8) 欧州投資銀行(EIB)	2.0%	英ポンド	2.4
(9) アメリカ国債	2.0%	USドル	4.4
(10) アメリカ国債	2.0%	USドル	3.9

※ウェイトはマザーファンドの対純資産総額比率です。

＜組入通貨配分比率＞

通貨	ウェイト
USドル	47.6%
ユーロ	19.8%
英ポンド	8.6%
日本円	6.7%
その他	17.3%

＜運用コメント＞

＜投資環境と運用状況＞

債券市場では、米国で多くの経済指標が市場予想を下回ったことや、米連邦公開市場委員会(FOMC)にて利上げ観測が大幅に後退したことなどから、グローバルに金利が低下しました。

為替市場では、欧州中銀(ECB)による国債購入を含む量的金融緩和(QE)が開始されたことなどから、円を含む他の多くの主要国通貨に対してユーロが下落しました。当ファンドは、デレレーションについてはベンチマークに対してやや長めとしました。国別配分については、米国や英国、メキシコなどをオーバーウエイトとする一方、ユーロ圏や日本などをアンダーウエイトとしています。

＜今後の運用方針＞

国別配分では、経済ファンダメンタルズが良好で通貨高が想定される米国やメキシコなどを重視する方針です。主要国の通貨に対し短期的には通貨の調整局面が想定されるユーロ圏については、為替ヘッジを一部実施するなど配分を少なめとする方針です。また、デレレーションに関しては、金融緩和の長期化が見込まれるユーロ圏や日本について長期債中心の保有を継続する方針です。特にユーロ圏では、ドイツに比べて利回りが高いベルギーおよびアイルランドの国債などを多めに保有する方針です。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を10/10ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

海外高利回り債券型(PD)

運用方針

米国の高利回り事業債に投資を行う投資信託を中心に運用を行います。

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点をもとに100として指数化したものです。

ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
海外高利回り債券型(PD)	0.34%	1.50%	8.76%	14.54%	80.90%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金等	4.7%
投資信託等	95.3%
合計	100.0%

【参考】海外高利回り債券型(PD)の主な投資対象の投資信託の運用状況を掲載

高利回り社債オープンVA(適格機関投資家専用)

(出所:野村アセットマネジメント株式会社)

＜基準価額の騰落率＞

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
高利回り社債オープンVA	0.5%	1.8%	9.7%	16.4%	122.0%

※収益率の各計算期間は、作成基準日から過去に遡った期間としております。

＜ポートフォリオ特性値＞

平均格付	B
平均クーポン	7.6%
平均直利	7.9%
平均最終利回り	7.7%
平均デュレーション	4.2年

・平均格付とは、基準日時点で投資信託財産が保有している有価証券に係る信用格付を加重平均したものであり、当該投資信託受益証券に係る信用格付ではありません。
・デュレーション：金利がある一定割合で変動した場合、債券価格がどの程度変化するかを示す指標。

＜業種別配分＞

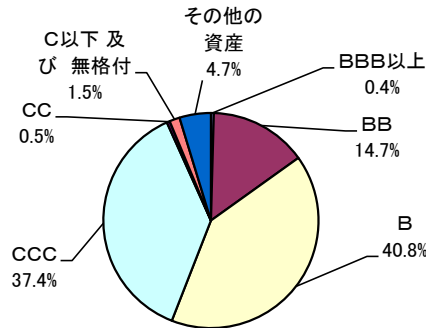
業種	純資産比
通信	10.8%
金融	9.7%
建設	8.5%
石油・ガス	7.4%
小売り	5.6%
その他の業種	53.2%
その他の資産	4.7%
合計	100.0%

※純資産比は、マザーファンドの純資産比と当ファンドが保有するマザーファンド比率から算出しております。

＜純資産総額＞

純資産総額	0.7億円
-------	-------

＜格付別配分＞



※格付はS&P社あるいはムーディーズ社のいずれかの格付機関の低い方の格付によります。格付がない場合は投資顧問会社が同等の信用度を有すると判断した格付によります。
※純資産比は、マザーファンドの純資産比と当ファンドが保有するマザーファンド比率から算出しております。

※上記のポートフォリオ特性値は、ファンドの組入債券等(現金を含む)の各特性値(クーポン、直利、最終利回り、デュレーション)を、その組入比率で加重平均したもので、現地通貨建て。また格付の場合は、現金等を除く債券部分について、ランク毎に数値化したものを加重平均しています。

＜組入上位10銘柄＞

(組入銘柄数 666 銘柄)

	銘柄名	クーポン	業種	格付	純資産比
1	LEVEL 3 FINANCING INC	8.125%	通信	B	1.2%
2	HARLAND ESCROW CORP	9.250%	ビジネス・サービス	CCC	1.0%
3	NAVIENT CORP	8.000%	金融	BB	0.8%
4	HD SUPPLY INC	11.500%	建設	CCC	0.8%
5	CENTURYLINK INC	7.600%	通信	BB	0.8%
6	WINDSTREAM CORP	6.375%	通信	B	0.7%
7	SPRINT COMMUNICATIONS	11.500%	通信	B	0.7%
8	HCA HOLDINGS INC	7.750%	ヘルスケア	B	0.7%
9	PETCO HOLDINGS INC	8.500%	小売り	CCC	0.6%
10	HEXION US FIN/NOVA SCOTI	9.000%	化学	CCC	0.6%

＜運用コメント＞

●投資環境

米国ハイ・イールド債券市場は、2月の小売売上高をはじめとした一部の米国の経済指標が市場予想を下回ったほか、早期の利上げが懸念され、米ドル高が進むことによる米企業の業績の悪化懸念が拡大したことなどから、月半ばまで軟調に推移しました。その後は、FOMC(米連邦公開市場委員会)が米国の経済成長がやや緩やかになったとの認識を示したことを受けて、早期の利上げ観測が後退したことなどから、反発する局面もありましたが、月間では下落となりました。

●運用経過

月間の基準価額(分配金再投資)の騰落率は、+0.5%になりました。保有していたハイ・イールド債券が下落したものの、ドル・円の為替レートが前月末と比べてドル高・円安となったことがプラスに作用しました。月末の組入比率は高位組み入れを維持し、95.3%となりました。業種別配分は、通信や金融などを上位としました。

●今後の運用方針

米国ハイ・イールド債券市場は、米国経済の拡大、企業利益の増加を背景に当面は堅調に推移すると考えられます。ハイ・イールド債券発行体は内需企業が多いことから、ファンダメンタルズ(基礎的諸条件)の見通しはポジティブです。企業は積極的に借換えを行なうことで債務償還を先延ばしにしていることから、デフォルト(債務不履行)率は今後も低水準で推移すると考えられます。コモディティ価格の下落は米国にとってインフレ低下圧力となっており、今後の金利上昇(債券価格は下落)は緩やかなペースと予想されます。金利上昇局面においても、当ファンドが組み入れているハイ・イールド債は、デュレーション(金利感応度)の短さなどから、その他債券資産より投資成果が大きくなる可能性が高いと考えられます。直近売られ過ぎで割安感の高まったBB格の銘柄を選別して組み入れ、CCC格の銘柄は特にデュレーションの短い銘柄を選好する方針です。当ファンドでは、個別銘柄の選択にはより一層慎重に対応し、今後もキャッシュフロー(現金収支)が安定的な企業や良好な収益見通しが期待できる企業を中心に投資を行なう方針です。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を10/10ページに掲載していますので必ずご参照ください。

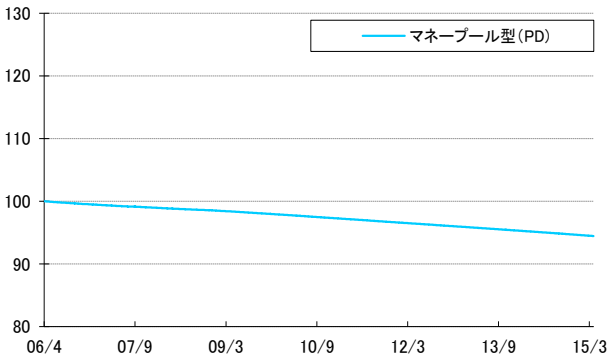
特別勘定名称

マネープール型(PD)

運用方針

日本の公社債および短期金融商品に投資を行う投資信託を中心に運用を行います。

ユニット・プライスの推移



ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
マネープール型(PD)	▲0.06%	▲0.18%	▲0.38%	▲0.74%	▲5.55%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金等	10.1%
投資信託等	89.9%
合計	100.0%

※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点を「100」として指数化したものです。

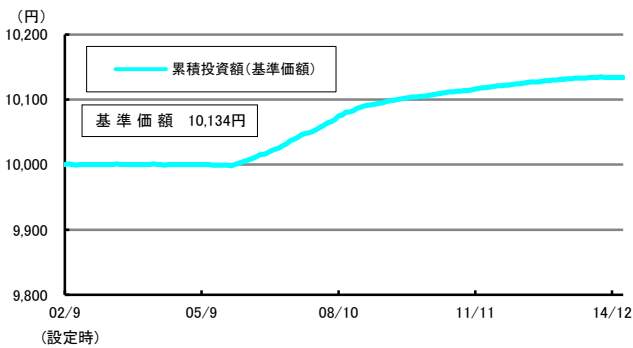
【参考】マネープール型(PD)の主な投資対象の投資信託の運用状況を掲載

フィデリティ・マネー・プールVA(適格機関投資家専用)

(運用会社:フィデリティ投信株式会社)

◆本邦通貨表示の公社債等を主要な投資対象とし、安定した収益の確保を図ることを目的として運用を行います。

設定来の運用実績 (2015年3月31日現在)



※累積投資額は、ファンド設定時に10,000円でスタートしてからの収益分配金を再投資した実績評価額です。ただし、購入時手数料および収益分配金にかかる税金は考慮していません。

※当ファンドは、ベンチマークを設定しておりません。

※基準価額は運用管理費用控除後のものです。

※当該実績は過去のものであり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

純資産総額 116.2 億円 (2015年3月31日現在)

商品概要

形態	追加型投信/国内/債券
投資対象	本邦通貨表示の公社債等
設定日	2002年9月20日
信託期間	原則無期限
決算日	原則、毎年11月30日(休業日のときは翌営業日)

累積リターン

(2015年3月31日現在)

	直近1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	設定来
ファンド	0.00%	0.00%	▲0.01%	0.01%	1.34%

※累積リターンは、収益分配金を再投資することにより算出された収益率です。

過去5期分の収益分配金 (1万口当たり/税込)

第9期(2010.11.30)	0円
第10期(2011.11.30)	0円
第11期(2012.11.30)	0円
第12期(2013.12.02)	0円
第13期(2014.12.01)	0円

ポートフォリオの状況(マザーファンド・ベース)

(2015年2月27日現在)

<資産別組入状況>

債券	57.8%
CP	-
CD	-
現金・その他	42.2%

<組入資産格付内訳>

AAA/Aaa	-
AA/Aa	57.8%
A	-
現金・その他	42.2%

平均残存日数	56.53日
平均残存年数	0.15年

格付は、S&P社もしくはムーディーズ社による格付を採用し、S&P社の格付を優先して採用しています。「プラス/マイナス」の符号は省略しています。なお、両社による格付のない場合は、「格付なし」に分類しています。

(対純資産総額比率)

組入上位10銘柄(マザーファンド・ベース)

(2015年2月27日現在)

	銘柄	種類	格付	比率
1	第510回 国庫短期証券 2015/05/12	債券	AA/Aa	19.2%
2	第500回 国庫短期証券 2015/03/23	債券	AA/Aa	12.8%
3	第504回 国庫短期証券 2015/04/13	債券	AA/Aa	12.1%
4	第515回 国庫短期証券 2015/06/01	債券	AA/Aa	7.9%
5	第502回 国庫短期証券 2015/03/30	債券	AA/Aa	3.6%
6	第514回 国庫短期証券 2015/05/25	債券	AA/Aa	1.4%
7	第497回 国庫短期証券 2015/03/16	債券	AA/Aa	0.7%
8	-	-	-	-
9	-	-	-	-
10	-	-	-	-

(組入銘柄数: 7)

上位10銘柄合計 57.8%
(対純資産総額比率)

* 各々のグラフ、表にある比率は、それぞれの項目を四捨五入して表示しています。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を10/10ページに掲載していますので必ずご参照ください。

当資料はアクサ生命が新変額個人年金保険
「新生パワーダイレクト年金」の特別勘定について運用状況などを報告する資料です

ご注意いただきたい事項

▲ 投資リスクについて

この保険の据置(運用)期間中の運用は特別勘定で行なわれます。特別勘定資産の運用実績に基づいて年金額、死亡給付金額および解約払戻金額等が変動(増減)します。特別勘定資産の運用は、株式および公社債等の価格変動と為替変動等に伴う投資リスクがあり、運用実績によってはお受け取りになる年金額や解約払戻金額の合計額が一時払保険料を下回ることがあります。これらのリスクはすべてご契約者に帰属します。

▲ 元本欠損が生じる場合があります

解約の時期、被保険者の契約年齢等の諸条件により、ご契約者等が受け取る金額の合計額が、お払込保険料の合計額を下回る場合もあります。

保険会社の業務または財産の状況の変化により、年金額、死亡給付金額、解約払戻金額等が削減されることがあります。

▲ 諸費用について

契約初期費	一時払保険料(増額・規則的増額保険料を含む)に対して 5.0% を特別勘定繰入前に控除します。
保険関係費	特別勘定の資産総額に対して (年率0.75%+運用実績に応じた費用(※))/365日 を毎日控除します。 ※運用実績に応じた費用:運用実績を毎日判定し、運用実績が 年率1.5% を超過した場合のみ、 超過分1%あたり0.1%(上限1.25%) を控除します。
契約管理費	基本保険金額が100万円未満のご契約に対し、 毎月500円 を積立金から控除します。
移転費	積立金の移転が年間13回以上のとき、 移転一回につき1,000円 を、保険会社が移転を受け付けた日末に積立金から控除します。
年金管理費	年金支払開始日以後、支払年金額の 1% を年金支払日に控除します。
資産運用関係費	日本成長株式型(PD) 年率0.9504%程度
	日本店頭・小型株式型(PD) 年率0.756%程度
	日本株式INDEX型(PD) 年率0.432%程度
	海外株式INDEX型(PD) 年率0.432%程度
	エマージング株式型(PD) 年率1.2096%程度
	日本債券型(PD) 年率0.2592%~0.378%程度
	世界債券型(PD) 年率0.918%程度
	海外高利回り債券型(PD) 年率1.134%程度
	マネープール型(PD) 年率0.00918%~0.54%程度

資産運用関係費は将来変更されることがあります。

その他お客さまにご負担いただく手数料には、信託事務の諸費用等、有価証券の売買委託手数料および消費税等の税金がかかりますが、費用の発生前に金額や割合を確定することが困難なため表示することができません。また、これらの費用は各特別勘定がその保有資産から負担するため、基準価額に反映することとなります。したがって、お客さまはこれらの費用を間接的に負担することとなります。

その他ご注意いただきたい事項

- 当資料は、特別勘定の主な投資対象である投資信託の勧誘を目的としたものではありません。
- 新変額個人年金保険「新生パワーダイレクト年金」は、生命保険商品であり投資信託ではありません。また、ご契約者様が直接投資信託を保有されている訳ではありません。
- 新変額個人年金には複数の特別勘定グループが設定されており、「新生パワーダイレクト年金」には「特別勘定グループ(PD型)」が設定されています。保険料繰り入れおよび積立金の移転は「特別勘定グループ(PD型)」に属する特別勘定に限定されます。「特別勘定グループ(PD型)」以外の特別勘定グループに属する特別勘定への保険料の繰り入れおよび積立金の移転はできません。
- 特別勘定および特別勘定の主な運用対象となる投資信託の内容が変更されることがあります。
- 特別勘定資産の運用実績は、特別勘定が主な投資対象とする投資信託の運用実績とは異なり、一致するものではありません。これは、特別勘定は投資信託のほかに、保険契約の異動等に備えて一定の現預金等を保有していることや、積立金の計算にあたり投資信託の値動きには反映されていない保険にかかる費用等を特別勘定資産から控除していることなどによるものです。
- ユニット・プライスとは、特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の参考値で、各特別勘定の運用開始時の値を「100」として指数化したものです。

新変額個人年金保険(無配当)＜特別勘定グループ(PD型)＞「新生パワーダイレクト年金」は現在販売していません。